

JIPDEC(オープンデータ・ビジネス・コンペティション)

**『多摩バーチャルデポジットライブラリー』
利用のための資料保存をめざす
NPO法人共同保存図書館・多摩**

NPO法人共同保存図書館・多摩+(株)カーリルの共同研究事例

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

齊藤 誠一

(株)カーリル

吉本龍司

2015年3月3日

多摩地域の図書館では 何が起きているか

- 閉架（保存）書庫資料の利用拡大
 - OPAC普及によるアクセスの容易さ、開館40年以上の蔵書の充実
- 相互貸借による資料活用の拡大
 - 横断検索システムの普及
- 保存スペースの不足
 - 多摩地域全体の収蔵率=115%（2013年）**
 - ⇒除籍資料の増加
 - 多摩地域全体で約58万冊／年（2013年）**
- 資料保存の広域的なセーフティネットの仕組みがない
 - ⇒多摩地域で最後の一冊をチェックする機能もない

多摩地域の 共同保存図書館構想の内容

- 各自治体図書館単位での
「最後の一冊本」の保存・維持の努力
- 多摩地域全体において
「最後の二冊以下本」の保存の保障
- 地域内での物流体制の確保
迅速な資料提供の保障
- データ管理
⇒ 多摩地域で最後の二冊以下本のDB構築

ただし、具体的な共同保存図書館が実現していない

特定非営利活動法人 共同保存図書館・多摩の活動

- **共同保存図書館の設置への啓発活動**
 - ⇒ 多摩デポ講座の開催
 - ⇒ 多摩デポ通信の発行
 - ⇒ 多摩デポブックレットの発行
- **共同保存図書館設置に向けた研究活動**



バーチャル・デポジット・ライブラリー構想の研究

他地域・他の県域への モデル事業として

- どの都道府県でも同じ課題を抱えている。
- 電子書籍の前に、印刷本と現にある既に整備されたインフラをどう活用していくかの課題を考える必要がある。
- オープンデータの活用によって、図書館
広域行政のモデルプランを提起できる。
- 今から、今だから、あえて印刷資料の保存と活用を考えたい。

多摩バーチャルデポジットライブラリー

Google Big Query

データ分析基盤

カーリル API

希少な本のリスト

書誌情報(本の基本情報)
180万冊

多摩地区の図書館(30館)

+ 東京都立図書館

データを活用

国立国会図書館API

国立情報学研究所API

オープンデータ

所蔵情報(蔵書のある・なし)

180万冊×30館=5,400万件

ウェブサイトの公開された情報を収集

合計 / タイトル

9000

8000

7000

6000

5000

4000

3000

2000

1000

0

1980 1981 1982 1983 1984 1985 1986 1987 1988 1989 1990 1991 1992 1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015

出版年

所蔵自治体数

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21

